

## 二月の購入図書

### 一般図書

絵本の与え方 渡辺茂男  
 サンタクロースの部屋 松岡享子  
 キリストの誕生 遠藤周作  
 人間とはなにか? 本明貴(共著)  
 火宅の母の記 高岩とみ  
 古代天皇制国家と原住民 新谷 行  
 氷の大陸南極 神沼克忠  
 地震予知の方法 浅田敏編著  
 天体観測ガイド 下保 茂  
 成人病のすべて 佐藤正治  
 神経症と心のからくり 高良武久  
 現代巨大企業と独占 坂本和一  
 現代日本産業技術論 森谷正規  
 オーディオの本 長 真弓

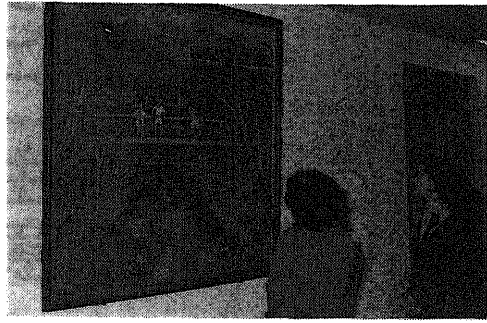
## 郷土の画家 霞郷の大作寄贈

小形山の清水重雄さんが、郷土の画家藤井霞郷の日本画を福祉センターへ寄贈されました。

藤井霞郷は、昭和24年に他界されましたが、川合玉堂門下で日展審査員に推薦される程の著名な画家でした。

作品は「十二橋」と題したたて1.8m、よこ2mの大作で、昭和7年3月に画かれたものです。

センターでは、四日市場 勝俣藤久さんの額の寄贈を受けて、早速文化会館一階ロビーに飾りつけました。



図解草花園芸辞典 東陽出版

天才棋士の記録 山田覆面子

ことばのセンス 楠本憲吉

大津皇子 生方たつ系

管絃祭 竹西寛子

少年の声 山本道子

遠い日の戦争 志村 昭

国譲り神活の周辺 鳥山兼久

中学生に明日を 大沢勝也

発展途上国と日本人 鳥羽欽一郎

イギリスと日本(統) 森島通夫

世界の通貨ガイド 岩下正美

日本人の寿命 黒田俊夫

図説地方税 津田正編

中小企業の生きる道 渡辺 睦

家の歴史 中村吉治

科学技術とは何か 佐藤 進

童謡唱歌の世界 金川一春彦

楽しい写真入門 上野千鶴子

外一〇四冊

### 児童図書

ねずみのごちそう 杉田 豊

ねずみのおいしさま 加古里子

いえをたてる ウルフ・トニー

君たちの生きる社会 伊藤光晴

洞くつの世界 高安克己

スズメ 小林清之介

ゆかいな園芸 シモンズ・ダイアナ

版画あそび 石井正子

まほうつかいのまごむすめ 立原えりか

西遊記(上・下) 呉 承思

源氏の旗風 北川忠彦

魂の呼び声 白洲正子

フランダーズの犬 ウィーダ

黒馬物語 シュウエル・アンナ

アラビアンナイト 上下

いないいないばあや デイクソン編

外二十一冊 神沢利子

一般図書 一三七冊

児童図書 三七冊

計 一七四冊

## 五十三年中の図書館

### 利用状況

館外貸出数

一般図書 四四一冊

児童図書 八四三八冊

計 一三、八四九冊

館内閲覧者

男子 七五五三人

女子 四六〇二人

計 一、一五五人

一般貸出登録者数 六〇四人

児童貸出登録者数 七九三人



## 近世(5)

そして慶長五年、徳川家康の再支配となった時に、平岩親吉がふたたび修理工事を行ったものであるという。

こうした築城がさかんであったことはまだ戦国のほとぼりは各地にのこっていたから、勝山城、岩殿城も防備のうちにあったものといえよう。

一五八九(天正十七)年八月、家康は大宮から甲府にきて、それから郡内を巡視したのは九月二十六日で羽根子の大儀山長生寺へも立寄り、休息されたところに権現社として祀り現在もその跡がのこされている、また勝山城の書院の跡も権現社があり現在も城山の山頂に祀られて祭りが行われている。

その時に鳥居元忠は  
 白金 十枚  
 綿 百抱  
 漆 百桶

を献上したという(雨谷村、森島其進の草稿による)  
 綿は木綿以前は麻が民衆の主力料とされていたが、江戸時代初期には綿花のまま綿入れ用として防寒のみにつかわれる程度であったが、元禄時代ごろから綿作が普及して、特に主産地として関西方面

でさかんとなったが、どの地域でもわるいことはないままでいわれたが、鳥居時代には綿の生産が上昇しつつあったことがこれでもわかると思われる。

漆は武田氏時代に信玄が国上開発の一環として漆の植樹を奨励したという、政策的なものともまた風土がこれに適していたした武田氏が軍事上、財政上に大きな役割りを果たしてきたともいえよう。

全国でも有数の産地であり都留郡もそのうちにあったのかも知れない、県下でも東八代郡中道町を中心に七つの集落に漆役人を置いて、年々の漆の調達に義務づけられたという、漆は「一盃、二盃」という量でしめされ、一盃は約一キログラム(二七〇匁)で漆桶につめられて納められたという。

家康に献上された漆は百桶というからこれだけの数量はおそらくは郡内の全域からあつめられていたものにちがいがなく、しかしその資料はほとんど見ることができない。

一六〇九(慶長十四年)鳥居土佐守成次の時に  
 京へうるしつけ上申伝馬、合せて三疋、河口村からゆひまで役所通過を許す(河口湖町史)

とあって漆をこどもも採取して貢租として、またこれを京都まで運んだことになる。

羽田 富士男